

学校経営のポイント

“虚言と表現のあやの間”を考える

若井 彌一

世の中、実に目まぐるしいほどに各領域・分野で次々と事件や問題が発生する。国の根幹にかかわる領域分野である政治も、また、政治と不可分の関係にある経済・金融の分野でも“激動”という表現がピッタリするような状況が続いている。

田中外相の更迭と動きゆく政局

1月末に田中外相が更迭された。

アフガニスタン復興支援国際会議に非政府組織（NGO）の参加を外務省が拒否する事態となったこと、背景をめぐって、鈴木宗男議員が外務省に圧力をかける発言をしたか否かについて、野上義二事務次官との微妙な表現の対立が国会審議で大きな問題となり、紛糾した「責任」を問うたというのが更迭の大義名分である。

小泉内閣を誕生させるに大いなる寄与をした田中外相であったことから、これをきっかけに政局が大きな混迷状態に突入するのでは、との予想も表面化してきている。今後の動向を注視したい。

“虚言と表現のあやの間”

さて、今回、読者の方々に考えていただきたいのは、“虚言と表現のあやの間”についてである。

虚言（ウソ）を言うことは一般的には、道徳的に望ましくないこととされるし、また、虚言の内容によっては、犯罪行為として刑事罰の対象にされてしまうことがある。生々しい最近の事例は、雪印食品の輸入牛肉を国産牛肉のラベルで偽装した事件であろう。会社ぐるみの詐欺事件（刑法第246条違反）に発展しそうな成り行きである。

しかし、虚言の奨励をするのではないが、人は、自分が知り得ている事実を、また考えていることを、単に機械的に他者に対して伝え、述べればよいわけではない。

事実無根のことを在るかのごとく言うのは虚言の範囲に属するが、1の大きさ程度のものを2または3くらいの大きさにして話すことは、日常的に珍しいことではないであろう。ある種の誇張表現は、会話内容や場の雰囲気盛り上げ、おもしろくさせることに効果的である。

“言語表現を豊かにする”取組みを

誇張表現だけが効果的なのではない。一般に、“表現のあや”と称されるものは、誇張表現だけでなく、間接的表現や婉曲表現であったり、また、仮定・願望的表現であったり、その内容は多様である。これらの表現は、時と場合を総合的に判断して、どのような表現の仕方が最もふさわしいかをよく考えて発せられるところに共通性がある。

われわれは、多くの場合、言葉を媒介として人間関係を私的にも公的にも築き、維持している。したがって、「人生をより深く生きる」（子ども読書活動推進法第2条）うえで、言語表現を豊かにする取組みはきわめて重要である。

「うるおいのある言語表現」を可能とする総合的な取組みを各学校で積極的に展開していただくことを期待するものである。

（わかい・やいち = 上越教育大学教授）

キーワードは“教師”と“子ども”！ “読本シリーズ”最新刊 好評発売中

- 『発展的学習の指導の手引き』高階玲治編・2100円
- 『子どもの学力読本』新井郁男編・2100円
- 『指導力不足教員』読本』八尾坂修編・2100円
- 『心を育てる「朝の読書」』林公編著・2100円

本紙はホームページでも閲覧できます
<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>

予約受付中！ 10年間の審議会重要答申・統計資料・新法令・通知通達等を整理収録！ 教育開発研究所・刊

創刊30周年記念増刊『教職研修‘02情報版』菱村幸彦監修

各学校・教委に1冊常備の資料大全 【資料CD ROM】添付 4月増刊・B5判300頁・定価2,730円

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）